2017年2月1日

いつも市民のためにご尽力くださりありがとうございます。

2016年10月15日にヤクシカのオス一頭が死亡、2016年4月10日、2016年11月25日、2016年12月26日、2017年1月29日（もしくは28日）にインドクジャクが計4羽死亡した件を受け、昭和公園の動物たちの飼育環境改善について、下記3点を提案させていただきます。

1. ヤクシカについて
**常時餌を食べられるよう、牧草・野菜などの増量**
現状、16時頃にはほとんど食べるものがなくなってしまっています。シカは反芻動物です。反芻動物の睡眠時間は総じて短く、反芻が終わると食べ、反芻が終わると食べを一日中繰り返すので、常に食べられる状況にしておくことは、シカの福祉にとって重要です。ヤクシカの収容施設内ではヤクシカ同士の闘争、イジメが頻発していますが、食料が不足していることがこれらの闘争の要因である可能性もあります。
ヤクシカのオスが死んだころはちょうど発情期で、オス同士の闘争が激しくなっていました。（2016年10月13日撮影　闘争の動画添付）そして（病理解剖が行われていないため明らかになってはいませんが）闘争によるストレスあるいは外傷がヤクシカの死亡につながった可能性もあります。
ヤクシカ同士の闘争は現在も収束しておらず、2017年に入ってからも闘争が続いています。（2017年1月25日撮影　闘争の写真添付）。
反芻動物に適した給餌、闘争の防止という観点から、餌の増量を提案します。
2. ヤクシカについて
**衛生管理・サシバエ防止のために、収容施設内の土の定期的な入れ替え**
昨年発生したサシバエについて、市のほうでは早急な対策をしていただきましたが、残念ながら、大きな効果がみられず、秋の終わりまでヤクシカがサシバエに襲われる状況が続いていました。
サシバエは一般的に発生してから対策しても遅く、サシバエが発生し始める春先までの予防が重要だと言われています。発生源は特定されていませんが、鹿の糞尿が吸収された土壌がサシバエの発生源である可能性も否めません。2016年10月15日にオスのヤクシカがなくなった際はサシバエが大量発生している時期でした。サシバエに刺されると強い痛みとかゆみを伴います。長期にわたりサシバエに刺され続けたことが、ヤクシカの死亡要因である可能性もあります。
サシバエ予防、またサシバエいかんにかかわらず、衛生面からも土壌の定期的な入れ替えを提案します。
＊全面コンクリートをご検討されている場合ですが、硬いコンクリート床は蹄への反発が大きく鹿への負担になってしまうため、全面コンクリートにはすべきでないと考えます。
3. 死亡動物の病理解剖
2017年1月29日に死んだインドクジャクについては死亡原因を検査されるとのことですが、2016年4月10日、2016年11月25日、2016年12月26日に死んだインドクジャク3羽、2016年10月15日に死んだヤクシカ1頭については病理解剖されぬまま処分されてしまっています。今後の予防につながるよう、死亡原因を究明することを提案します。
「展示動物の飼養及び保管に関する基準」にも原因究明の必要性が記載されています。

【参考】展示動物の飼養及び保管に関する基準

イ 動物の疾病及び負傷の予防等日常の健康管理に努めるとともに、疾病にかかり、 若しくは負傷し、又は死亡した動物に対しては、その原因究明を含めて、獣医師 による適切な措置が講じられるようにすること。また、みだりに、疾病にかかり、 又は負傷した動物の適切な保護を行わないことは、動物の虐待となるおそれがあることを十分認識すること。（赤字部分はアニマルライツセンターが強調）

NPO法人アニマルライツセンター